



新しい時代の、新しいつながりを創る

FACE to FUKUSHI



“ 新しい時代の、 新しいつながりを創る FACE to FUKUSHI へ。 ”



大原
裕介

河内
崇典

interview

福祉を社会にひらいてきた、FACE to FUKUSHI 共同代表2人のスペシャル対談企画。FACE to FUKUSHI（以下、F2F）への思いを重ねながら、福祉業界の未来について語りあっていただきました。

F2F 設立へ

河内：僕と大原の出会いは約10年前。全国の福祉系の起業家たちが集まる勉強会で会ったのが初めてでしたね。お互い学生のときに法人を立ち上げており、当時の福祉業界に対する課題意識や同じ悩みを持っていたこともあり意気投合しました。

大原：北海道の小さなまちで福祉事業をやっている僕にとっては、河内くんはじめ、福祉に携わる全国の同年代の人から大きな刺激をもらいました。福祉を3Kと揶揄するようになっていた当時の時代の中で、自分たちには何ができるだろう？ということをずっと語り合っていました。

河内：そういう話ができることが嬉しかったよね。そして、集まっては議論していた課題感のもと立ち上げたのが「全国若手福祉従事者ネットワーク」。僕たちの世代だからこそ創造できる福祉があると思っていたし、同世代の若手職員たちが職場をこえてつながり、福祉の価値

観、悩み、課題を共有できる場をつくったんです。

大原：当時の福祉業界にもいろんな団体やネットワークはありましたが、若手が中核になって活躍するネットワークは僕らが初めてでした。福祉のネガティブイメージが一般化していく中で、僕たち若手が声をあげ、現場のリアリティを世の中に発信していくことに大きな意味がありました。しかし、各地で勉強会やイベント開催をしながら3,000人程のネットワークに成長しながらも、実際の現場ではどんどん人が辞めていく…。そんなとき河内くんが、「これはもう入口からやらないとだめだよ」と言ったのが、F2Fを立ち上げる大きなきっかけとなりました。

河内：魅力的な現場づくりも大切だけど、「福祉業界で働きたい」って思ってもらわないと何も始まらない。だから、新卒で福祉業界に入るためのプラットフォームが必要だと思ったんです。採用に特化し、福祉で働く人を増やしていこうということで、F2Fを2009年に設立し、2012年に法人化しました。

F2Fの歩みと現状の課題

河内：2014年から今も続いている福祉の就職フェア「FUKUSHI meets!」では、当時開催されていたいかにも行政的な就職フェアではなく、会場や広報のデザインや演出まで、若者の感性に響くものを強く意識しています。FUKUSHI meets! と並行して、自法人の魅力発信のしかたや採用力向上の勉強会も行っていました。福祉業界全体にいい影響を与えることができたし、ある程度のムーブメントはつくれたと感じています。が、しかし。現在はその上をいくスピードで福祉人材が不足しているのも事実。

大原：統計上で福祉人材が数万人不足することは俄にわかっていましたが、「まさかここまでとは…」というのが正直な感想ですね。人口減少はこのまま進み、10年後にはさらに人材が不足するわけです。いっぽうで、支援を必要としている方は増えていきます。

河内：結局どこかしらに問題があるから離職や採用率の低さに反映されているわけで。でも課題が大きいということは、新しい取り組みが生まれるチャンスも大きいということ。新たな一手が自分たちに打てるのかが試されていると思うとワクワクしますね。

大原：もちろん僕らだけで解決していくということではなく、社会福祉法人や大学、そして学生も一緒になってこの難局をどう乗り越えていくかを考え、行動を起こしていくことが重要です。人口が減り、街や国が縮小していく中で、福祉が持つ価値はものすごく高いし、絶対になくてはならないインフラですから。

時代を乗り越えるF2Fの可能性

河内：F2Fも今後はさらに幅広く、その人の人生の、要



所要所の「キッカケ」になっていきたいですね。そういう意味では、就職よりもっと手前の小学校や中学校での福祉教育も大切。その場で話を聞いてすぐに「働きたい!」とかじゃなくても、たとえば中学生の時に福祉教育でなんとなく聞いていたことが、のちにボランティアをするキッカケになっていたり。福祉の実践者である僕たちが、子どもたちにどう伝えていくのかってことはとても大事だと思います。あとはやっぱり、課題になってから取り組むんじゃなくて、今だってそこかしこにたくさんある“課題予備軍”に取り組まないと。課題として明るみになってからだと追いつかないよね。「えらいことになった。ほなどうする〜?」っていう後手ではもうダメです。

大原：そうですね。起こったことへの対処療法しかやってこなかったのは、福祉業界の反省すべきところです。これからは、「職種や関係性をこえたステークホルダーを今後どれだけ増やしていけるか」ということが、F2Fの一つの将来ビジョンになると思います。僕らは単なるマッチングを推進していく企業でもなければ、売り手と買い手をつなぐような媒体でもない。福祉事業を行う1事業体として、語り合い、協働していく接点づくりが、この難局を乗り越えるポイントになると思います。



共同代表
河内 崇典

NPO 法人み・らいず 2 代表理事
NPO 法人 edge 代表理事
一般社団法人 Collective for Children 共同代表
近畿大学 非常勤講師



共同代表
大原 裕介

社会福祉法人ゆうゆう 理事長
北海道医療大学 客員教授

FUKUSHIを「つたえる」

中学生・高校生

中高生がなりたい職業ランキング

79位 100位以上
ソーシャルワーカー ケアワーカー

※13歳のハローワーク 人気職業ランキング (2022年8月1日～8月31日)

かんがえる福祉教育
「FUKUTHINK」

FUKUTHINK



全国の中高生に、福祉現場のリアルを教材に、その人の声と想いをテキストに、「福祉の本質」を共に考えていきます。

全国8都道府県で52回開催

5,240名の

中高生に福祉教育を実施 (2021年度実績)

参加者の声

「福祉・介護などは将来やらないだろうと考えていたのですが、イメージががらりと変わりました。」
「授業を聞いて、祖父の顔が浮かんだ。祖父がやりたいことに対して家族は心配する思いが強かったが、一歩踏み込んで祖父に寄り添っていきたいと思った」

私たちは福祉の未来をつくる人をつくる活動をしています。



FUKUSHIを「つなげる」

大学生

就職先に福祉業界を検討している大学生は1割未満

福祉専攻の約半数は福祉現場以外に就職

6.0%

※マイナビ 2023 年卒 大学生 業界イメージ調査

福祉現場への
就職率 44%

※ 日本福祉大学 社会福祉学部人間福祉専修 2022 年 3 月卒業生進路先内訳

福祉はこんなにオモシロイ! をひらく
「OPEN FUKUSHI」OPEN
FUKUSHI

現場のリアルや様々な取り組みの「オモシロイ福祉」をアーカイブ動画や学校への出前講義・セミナーを通して、学生に福祉をひらいています。

熱意ある福祉法人と学生が出会う
「FUKUSHI meets!」FUKUSHI
meets!

法人と学生がリラックスして出会い、じっくり語り合い、お互いの理解を深められる場をつくることで、就職のベストマッチングをサポートしています。

福祉業界特化のオファー型就職サイト
「FUKUROSS」FUKUROSS
福祉に特化した就職

福祉と若者をつなぐ、法人が学生に自らアプローチできるダイレクトリクルーティングサイトで学生一人ひとりに向き合う採用・人材確保の機会をつくります。

FUKUSHI meets! 内定者数

224名

(2022 年新卒/110 法人)

参加者の声

元々、公務員志望で法人については何も知らない状態で、社会福祉法人とはどんなところなのかを知りたいと思い、フェアに参加しました。1日でいくつもの法人の話聞くことができ、私は1回の参加で「ここで働きたい」という法人に出会い、最終的に就職先になりました。FACE to FUKUSHI が主催するフェア以外の就活に関するイベントにも参加したことで、とても濃い就活ができたと感じています。

FUKUSHI meets! 学生満足度

95.5%

(2023 年新卒)

FUKUROSS マッチング数

431名

(2023 年新卒/2022 年 6 月時点)

福祉に特化したダイレクトリクルーティングサイトが他に無いので利用しました。最初はオファーがあるか不安でしたが、プロフィールをしっかりと埋めることで、たくさんの法人からオファーをいただき、つながることができました。知らない法人からもオファーが来て、視野が広がったと思います。また、法人が自己PRをしっかりと読んで連絡いただけたので、自分を評価してもらっていると感じ、自信ができました。

FUKUROSS 内定者数

47名

(2023 年新卒/2022 年 6 月時点)

FUKUSHIを「もりあげる」

福祉業界全体で取り組んでいくために、福祉業界の底上げや、協働・ネットワークづくりを行っています。

大学・福祉法人等

大学との協働

大学と協働して、学生向けのキャリアセミナーの実施や、福祉の現場のリアルを伝える授業や現場ツアーの企画、大学生が実施する福祉教育等を実施しています。

採用サポートセミナー・情報交換会

出展法人向けに採用のポイントをお伝えするセミナーを開催するとともに、法人同士が情報交換する機会を提供し、切磋琢磨する場をつくっています。

採用戦略フォーラム

採用のトレンドやFACE to FUKUSHIが大切にしていることを発信するフォーラムを開催し、福祉業界全体の採用に対する意識の向上をはかっています。

採用に関する調査とレポートの発行

毎年、福祉業界に特化した法人・学生に関する調査を実施し、調査内容や採用のポイントをレポートにまとめて発信しています。

大学生の声

酒井 美結さん 立教大学 コミュニティ福祉学部 福祉学科4年生



FUKUSHI meets! と FUKUROSS で広がる視野

先輩からの紹介で大学2年の3月からフェアに参加していました。就活では、FUKUROSSと併用し、オファーをいただいた法人の話フェアで聞き、「ここだ!」と思い、就職を決めました。オンラインということもあり、全国各地の魅力的な法人と出会えただけでなく、就職先を決める過程の中で、様々な法人との出会いによって自分の視野も広がる面白い就活にすることができたと感じています。

インターンの声

根岸 真子さん 津田塾大学 総合政策学部総合政策学科4年生



福祉のしごとの魅力を若い世代に伝えたい!

インターンに参加する前は、将来、福祉にどのように携わりたいのかが曖昧でした。F2Fのインターンに参加して、福祉に関心のある学生・F2Fのスタッフ・福祉に取り組む熱い法人に出会い、自身の将来の方向性を考えることができました。現在は、大学院で研究をした後に、福祉の現場で働く人々を支えることができる仕事を行うという方向性を考えています。F2Fのインターンに参加したからこそ、将来のビジョンを考えることができたと思います。

学校の先生の声

加山 弾さん 東洋大学 社会福祉学部社会福祉学科 教授



在学中に一度はFUKUSHI meets!へ参加するよう勧めています

「社会福祉学科に入って、FUKUSHI meets!を知らないのはもったいないよ」と、一度はFUKUSHI meets!へ参加するよう学生に勧めています。FUKUSHI meets!を通して社会福祉法人に就職したゼミの卒業生が、1年目から採用活動に携わっていると報告してくれました。固定概念や制度に捉われない、自由な発想で業界を牽引する社会福祉法人と出会えることが、FUKUSHI meets!の魅力だと思います。

関係団体の声

伊藤 新一郎さん 日本ソーシャルワーク 教育学校連盟事務局長/北星学園大学 社会福祉学部 福祉計画学科 教授



福祉職を志す学生が、全国各地の個性豊かな法人と出会える場

これまで福祉職の就職は「養成校と法人・事業所とのつながり（ゼミ教員の紹介/地元密着型）」といった傾向が強かったかもしれませんが、福祉職の就職活動のあり方を考えたとき、従来のスタイルを大切にする一方で、全国各地の多様で個性豊かな法人・事業所と出会うチャンスが得られる場は学生にとって貴重です。F2Fの事業が就職活動のツールの一つとして、ますます魅力的なものとなっていくことを期待しています。

関係団体の声

大崎 雅子さん 全国社会福祉法人経営者協議会 PR戦略特命チームリーダー



ひとの「生きる」に関わるクリエイティブな仕事を選択するきっかけに

ひとの「生きる」に関わる福祉の仕事は、決められた支援・業務だけではない、“温かみ”や“新たな発想”が求められ、共生社会の実現にもつながるクリエイティブな一面を持っています。本会では、社会福祉法人がやりがいと成長を実感できる組織であるよう、職場づくりと人材育成に力を入れています。F2Fの事業を通して、全国各地の社会福祉法人の活動や雰囲気はふれ、就職先を選択するきっかけとなるよう期待しています。

社会福祉法人の声

岩田 貞昭さん 社会福祉法人南山城学園 法人本部事務局 企画広報課長



社会福祉の"何かを変えてくれる"かもしれない存在

F2Fとの出会いは2015年の東京でした。“何かが変わるかもしれない”『全国FUKUSHI就職フェア』で感じた予感はいま 現実となっています。社会福祉は実践の科学。たえず変化する社会状況に合わせ、柔軟に対応する福祉実践が求められます。そのために、私たちは日々の実践を省察し専門性を向上できる Creative な人を求めます。F2Fは、その人たちと福祉をめぐり合わせてくれます。“何かが変わるかもしれない”予感を創りつけて欲しいと思います。

就職フェア
年間開催数

29回

※2022年開催実績

[内訳]
FUKUSHI meets! (25回)
FUKUSHI meets! インターンシップ (4回)法人向け
採用セミナー
年間開催数

8回

※2022年開催実績

学生向け
就活セミナー
年間開催数

24回

※2022年開催実績



登録学生数

2,971名

※2022年12月31日時点

学生が
在住する県47都道府県
全て関わりのある
大学の数

492校

(専門学校・短期大学含む)



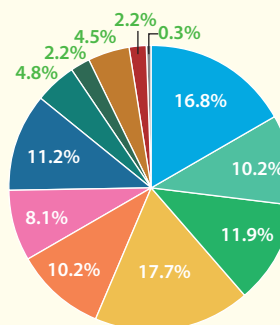
出展法人数

135法人

2022新卒向け就職フェア

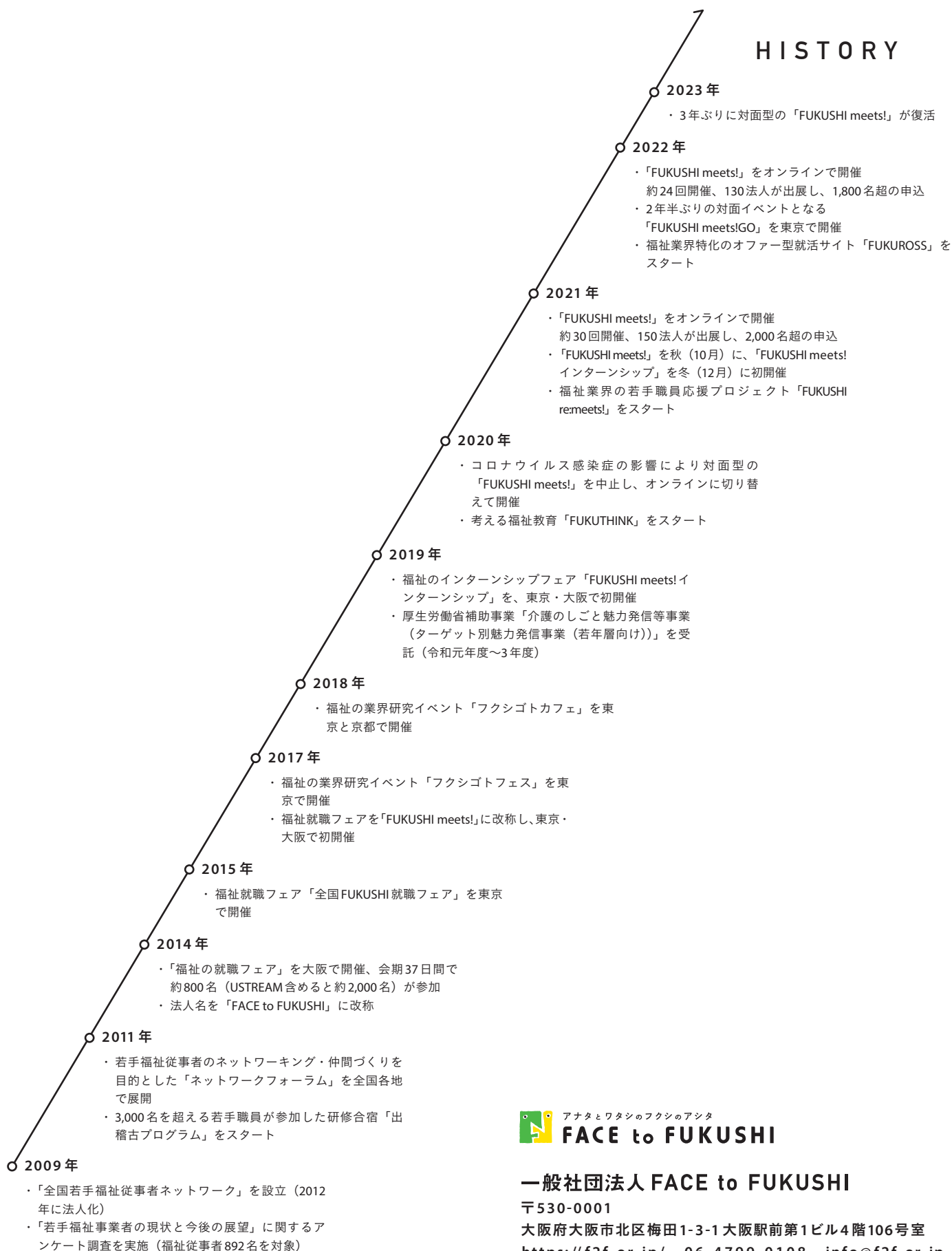


出展法人の属性



- 知的障害
- 精神障害
- 身体障害
- 高齢福祉
- 児童福祉
- 保育
- 地域福祉
- 生活困窮
- ニート・ひきこもり・不登校
- 医療
- 中間支援
- 行政

HISTORY



アナタとワタシのフクシのアシタ

FACE to FUKUSHI

一般社団法人 FACE to FUKUSHI

〒530-0001

大阪府大阪市北区梅田1-3-1 大阪駅前第1ビル4階106号室

<https://f2f.or.jp/> 06-4799-0108 info@f2f.or.jp